SERVAS JAPAN

中国四国支部会報

2023年2月号（No. 8）

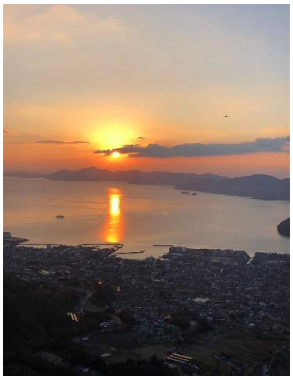
一般用

ごあいさつ

日本サーバス中国四国支部長　U.T.

4年の支部長生活の中、3年間はコロナ禍の中での活動でした。「オンライン」という新しいミーティングの形は、代替手段というより、新しい可能性に見えました。今まで出る勇気も時間も財力もなかった全国大会や研究会、講演会に何と気軽に参加できたことでしょう。初めてオンラインで支部会を開こうとしたとき、皆さんが賛成してくださるかどうか心配でしたが杞憂でした。支部会員の皆さんは既に前年にあらゆる難事を乗り越えて協力する姿勢を示してくれていたからです。数度の事前準備をクリアし、オンラインで会員の皆さんと話せたときはとても嬉しかったです。この4年間、それぞれに問題を抱えながらも、自分なりの形でサーバスの灯を絶やさないよう頑張ってくださったことを忘れません。本当にありがとうございました。

平和への思いを託す方法は人それぞれですが、私には、ホームステイという、ごく自然で素朴な方法で世界の平和に貢献できるサーバスが合っているように思います。どうか、同じ思いの方に声をかけていただいて、人数が増え、支部活動が盛んになることを願ってやみません。1月15日の支部会で、2023年度の新役員が決定し、4月から新たなる出発となります。新支部長のもとで、またよろしくお願いいたします。



野呂山からの初日の出

本号の内容

1　ごあいさつ・・U.T.

2　支部会報告・・S.Y

3　役員感想・・・U.S.・K.K・H.T.

4　東アジアオンライン交流会参加報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・U.S.・K.T.

5　編集委員より・・・S.Y

2　日本サーバス中国四国支部　2023年1月支部会報告

書記：S.Y.

日時　2023（令和5）年1月15日（日）13：00〜15：00

会議形態　：オンライン（ZOOM）

司会　：U.T.

書記　：S.Y.

出席者　：U、U、K、M、H、T、S.Y（7名）

欠席者　：5名（うち支部長委任2名）

内容：

1）　会員近況報告

A. 去年はいい年だった。メキシコに1ヶ月行ったり、スポーツしたり、食事に行ったり、いい年だった。

B. 横浜に行った。横浜はビール、ブラスバンド、パン発祥の地で、横浜に魅了されている。旅行に行きたい。みんなで旅行に行けたらいい。

C. クリスマスのあとから、テレビがこわれた。17年間使っていた。
今は諸事をゆっくりゆっくり理解したい。テレビを注文している。

D. オーストラリアのトラベラーがくる予定だったが、当日、熱が出て、キャンセルがあった。残念だった。来月、バンコクの Study ツアーに若い学生と共に2週間行く予定。

E. 子供たちが二人とも4月から、入学。机を買ったり、部屋を片付けしたりしている。

F. 去年の暮れ、サーバスのヨーロッパの30年来の友人から、カードをもらった。もう一度、出かけて再会したい。今年も元気でいきたい。

G. 昨日、第6回東アジアオンライン交流会が香港担当で開催され、参加した。最後の東アジア交流会である。サーバス会員100人くらい参加して、世界の人達とつながれたのがよかった。スモールグループでは、リラックスして、英語が話せた。東アジアならではだと思った。

２）　2022年度活動報告（支部長）

①　2022年12月末現在の会員数　12名（ホスト会員12名）

②　退会会員１名

③　外国からのトラベラー受け入れ0名

④　支部会報発行2回（2月、6月）

⑤　支部会議・例会等開催状況

2022年1月16日（日）13:00~15:00　中国四国支部会（オンライン）6名参加

2022年5月15日（日）13:00～15:00　中国四国支部会（オンライン）8名参加

2022年9月24日（土）トラベラー会員入会希望者（香川）面接（オンライン）

2022年12月15日（日）13:00～14:30　中国四国支部役員会（オンライン）7名参加

そのほかの活動

2022年1月23日(日)　20:00～22:00　第2回東アジア Zoom 交流会 4 名参加

2022年5月28日(土)　15:00～17:00　第3回東アジア Zoom 交流会 2名参加

2022年7月30日(土)　15:00～17:00　第４回東アジア Zoom 交流会 3名参加

2022年10月29日(土)　20:00～22:00　第5回東アジア Zoom 交流会 2名参加

2022年11月20日（日）10:00～16:00第23回ひろしま国際フェスタ（個人参加）

３）　2022年度　決算報告（会計）

省略

４）　役員改選

＊改選方法について、立候補又は推薦とすることを確認。

＊役員任期は会則で2年となっているが、中国四国支部の支部長については1年とする。

（再任の場合、中国四国支部では最長4年と2019年度に決定済み）

日本サーバス中国四国支部　2023年度新役員名

支部長　　：U.S.

副支部長　：K.K.　　S.S.

会計　　：H.T.

会計監査　：M.T.

ホストコーディネーター　：U.T.　　補佐　K.T.

運営委員　：T.M.

広報　　：S.Y.　　補佐　N.M.

面接委員　：Y.N.

顧問　　：M.T.（兼任）

（詳しくは議事録をご覧ください）

３　支部役員感想

１）　ホストコーディネーター係を終えて

U.S.

○２０２１年度　＊コロナ禍のなか、トラベラー会員の受け容れは無かった。

○２０２２年度　＊１０月２０＆２１日、オーストラリアのトラベラー会員からの宿泊依頼がＴ会員にあったが、体調不良ということでキャンセルとなった。結果として、トラベラー会員の受け容れは無かった。　（２０２３年1月１５日）

２）　会計係を終えて

K.K.

皆様のご協力のおかげで無事会計の役員を務めることが出来ました。コロナ禍で行事などあまりなく会計にとっては大変なことは何もありませんでした。4年間ありがとうございました。

３）　企画係を終えて

H.T.

　2021年度には、

*5人の方がリサーチして「リモート碑巡り」をすることが出来た。(敬称略)

「原爆に関する碑」→U、「戦争に関する碑」→U、H、「自然災害に関する碑」→K、M、

*近年、日本だけでなく欧米でも自然災害が多発し、気候変動と関連付けられている。

*私たちの周辺で過去に起きた水害、土砂災害、を顧みた石碑が、後世の人たちに、警鐘を鳴らす材料になればいいのだが。また、ロシアによるクライナ侵攻が終わらない昨今、戦争と核兵器の残酷さを、石碑を見て思い止まることができれば、と虚しい願望に駆られる。

　2022年度には、

(ア)11月20日に開催される「国際フェスタ」への応募を取りやめた経緯を振り返ってみる。

*7月初めに案内が支部長さんに届いた。

*フェスタの雰囲気を知っている支部長、U、K 各人に電話をして、参加、不参加、を会員みんなにどうやって諮るか、その諮り方について相談した。

【Covid-19 がまだ収まっていないから参加はもう1年延期しても良い事、モヤモヤした気持ちで応募を見合わせていること、文面の中に過年度の「国際フェスタ」のチラシを載せて、その素晴らしさを会員に見てもらう、などを知らせる事になった。メールの中に URL「国際フェスタ20〇〇年」を添付した。】

*内容を知ってもらった上で、「国際フェスタ」に参加するかどうか皆さんの考えを伺いたい、とメールを締め括った(中四国締め切り=7/15)。

1、参加を希望する。2、今年は参加を希望しない。二者択一で返信をしてもらった。

*その結果、支部会員13人のうち　参加= 0名、　　不参加= 7名、　　残りは無回答。

*結局、応募を見送った。

(イ)当日の様子

*11月20日(日)の午後1時、H は教会の部会が割と早く終わったので、宮島線の電車に飛び乗って、土橋で下車、急ぎ足で国際会議場へ向かった。

*ひまわり広場で開催された UNICEF と JICA を見て回った。UNICEF 大使のアグネス・チャンのウクライナ訪問の写真展が生々しかった。JICA は「地球ひろば」で子供たちが楽しんでいた。他のブースには時間不足で回ることが出来なかった。

*お腹が空いていたので、「世界の屋台」テントのテーブルに座って、ネパールのサモサを頬張った。ベトナムのコーヒーで、乾いた喉を潤した。美味しかった。

*毎年、課題を決めてそれに向かって各自が取り組むのは、結果が残るし、達成感がある仕事だと思う。さて、2023年度はどんな成り行きになるだろうか？　　(2022年12月29日)

4　東アジアオンライン交流会参加報告

＊「東アジアオンライン交流会（第1回～第５回)」に参加して

U.S.

コロナ禍で海外のサーバス会員の受け入れができない状況のなか、オンラインでの「東アジア交流会」が開催され、各国のサーバス会員の方々との交流がもてたことは、大変意義のある、素晴らしい試みであると賞賛のエールを送りたい気持ちです。

コロナ感染の不安、高齢化が進み、海外旅行を控える会員の為にもオンラインでの「サーバス交流会」がこれからも継続されることを願っています。

中国四国支部では、「東アジア交流会」に全5回参加したのは私のみということで、12月下旬に突然の感想依頼を受けました。慌てて、これまでの全5回の「交流会」を振り返り、まず、表にまとめてみました。

回	担当国	開催 年月日	参加 大陸数	参加 国数	参加人数 (日本)	発表内容	自グループ人数 (国名・人数)	参加形態（道具・衣装準備）
1	中国	２０２１・ 10/30(日)	5	２７	１００ （１６）	中国茶芸	５(ドイツ①、台湾①、 日本③)	中国茶器
2	日本	２０２２・ 1/23(土)	5	２５	１２８ （２５）	ＳＤＧｓ取り組み	３（台湾①、ルワンダ①、日本①)	赤い服
3	台湾	5/28(土)	5	２８	１０４ （１９）	Ｈａｋｋａ文化	４(ネパール①、オランダ①、韓国①、日本①)	ウクライナ（青＆黄）を象徴するもの
4	モンゴル	7/30(土)	5	２６	１１２ （１５）	遊牧民の生活	５(台湾①イスラエル①、モンゴル①、英国①、日本①)	自国の伝統衣装・文化を象徴するもの
5	韓国	10/29(土)	5	２５	１０６ （１５）	ＳＰＲ活動	５(台湾①、韓国②、オランダ①、日本①)	サイクリング（スポーツ）ウエア

各回の発表者のスピーチにより、今まで知らなかった各国の文化、習慣、活動に触れる機会を頂きました。また、オンラインでの映像と共に、リアルな体験ができ、多くを学ぶことができました。

「東アジアオンライン交流会」の運営にあたって、台湾の M.W.さんと会員の皆様のご尽力にお礼申しあげます。

特に、グループトークでは、様々な国々の方々と興味深い意見交換ができ、愉しい時間となりました。できれば、このグループトークの時間をもう少し、長くして頂ければ、もっと広い交流がもてると思います。発表時間を少し縮小し、グループトーク時間に当てては如何でしょうか。というのが、私の感想です。

第６回目は、２０２３年１月１４日（土）です。香港が担当です。発表内容は「Natural Beauty」です。グループトークでは、何処の国の方々とお会いでき、どんな驚きの情報が得られるのか、とても楽しみです♪。　　（２０２３年１月１２日）

＊第3回東アジア交流会（The 3rd Servas East Asia Online Meeting-Hakka Culture in Taiwan）に参加して

K.T.

2022年5月28日1５：00（台湾時間では14：00）から，第3回　サーバス東アジアオンライン交流会に参加しました。ZOOM を利用したオンライン画面の向こうに，五大陸，28か国のサーバスメンバーが登場し，にぎやかに始まりました。最初に，司会者が，「特別メンバーであるウクライナのＡさん（現在日本に滞在しています）を迎えることができました。」と紹介すると，参加者が一斉にウクライナの国旗の色，青と黄色を掲げてウクライナを支持

する気持ちを届けました。ウクライナが現在置かれている厳しい状況の中で，支援の輪を広げようとする雰囲気に接して，サーバスという組織の意義のようなものを感じることができた一コマでした。

さて，台湾サーバスがホストとなって開催されたこの交流会の中心テーマは，台湾の「客家文化」を紹介するものでした。なぜ台湾で「客家」が登場するのか，「客家」と台湾とが結びつかない不勉強な私でしたが，当日の3名のゲストスピーカーがそれぞれ「客家」である家族のことを語り，「客家料理」や「結婚式」などの「客家文化」を紹介するビデオを見て，それを誇りにしていることが十分伝わってきました。私にとって一つの異文化がそこにありましたが，それまでほとんど意識になかった「客家」という存在の歴史的な意味を知ることになりました。世界を見る目が少し変わったと思います。

ここで「客家」とはどのようなルーツをもつ民族なのか，まず4人目の発表者 B.L. さんが用意してくれたパワポの内容を紹介します。「What is Hakka?　Hak=guest（客）　ka=home（家），Hakka=wanderer，cosmopolitan＝traveler　我々は世界中を旅するトラベラーです。そして世界中が我々の家なのです。」と語る B さんの話は，壮大な「客家」の歴史を紹介するものでした。

客家のルーツは黄河流域の文明発祥の地，中原の漢民族にあります。殷や周などの時代からくりかえされた戦乱のたびに，難民として移動を強いられた民族なのです。彼らには「客家語」が代々受け継がれ，中原の名家であることを誇りに一族の族譜（家系図）も受け継がれます。ユダヤ人がパレスチナの地を後にして，流浪の民として生きざるを得なかった歴史と重なると思われました。厳しい状況の中でその結束を保つ中核にあったのが「客家語」であり，「客家文化」であったのかと想像できました。ユダヤ人がどこの場所においても，シナゴーグをつくり，「ユダヤ教の教え」を受け継いでいったことに通じる話だと思います。このルーツが「客家」にとっての誇りなのだと納得しました。我々大半の日本人が自分の家族のルーツを知らないのとは大違いです。

B さんの先祖は，13世紀に南部中国へと移動しました。モンゴル帝国の支配下にあった「元」の時代です。先祖たちは，南部の山岳地帯へと向かい，その地の先住民族と混血して

いきました。福建省や広東省あたりに住み着き，発展していくことになります。さらに，500年後の18世紀には，満州族の進入により「清」王朝ができ，客家の一部は台湾へと移り住みます。この時代は，開拓移民の大移動が起きた時代で，世界各地にヨーロッパ植民地におけるプランテーションが始まり，多くの労働者を必要としていたことも背景にありました。18世紀は，「客家」の大移動の時代でもあったのです。そうして，台湾の「李登輝」，シンガポールの「リークワンユー」，中華人民共和国の「鄧小平」などの優れた指導者を輩出します。

さて，台湾に移り住んだ客家の人々は，山岳地域の谷間に村を築いていきました。19世紀に，クスノキからとれる樟脳（しょうのう Camphor）は大変重要な天然資源で，プラスチックが発明される前には，セルロイドやフィルムなどの原料となりました。さらに無煙火薬としての用途も発明され，武器としての需要もありました。それで多くの客家の人々は山岳地域に入り込んでクスノキを栽培し始め，そのことが先住民との衝突を招くことになりました。何度かの流血の争いの後，客家と先住民は互いに対立するのをやめて協力するようになりました。その両者の混血も進み，今に至っています。

M.H. さんは，自分自身の人生の転機について語っています。テレビ局の報道キャスターであった彼女は，結婚を機にその都会の暮らしを捨て，夫とともに，客家村に移り住む決心をするのです。20年前の彼女の結婚式のビデオでは，二人の門出を総出でお祝いする客家村の人々がいました。「客家」のコミュニティを感じさせる場面です。そしてその中で，5人の子供さんが育っていく様子も紹介されます。みな誇らしい面もちです。家族ってこんな風に誇らしいものなのかとハッとさせられた一瞬でした。

Y.C.さんは3人の子供を持つお母さんで，Sui-Ban という伝統的な客家料理をビデオで紹介しています。彼女にとって「客家」という存在そのものであった祖母は亡くなってもういませんが，この料理がその祖母を思い出させてくれるというのです。彼女も若いときにほとんど関心を持たなかった「客家文化」に，今は誇りを持つようになったと語っていました。

まずは台湾も移民の国だったというのが驚きでした。そして，この国の約2割を占める「客家」という存在。彼らはまさに，歴史を背負って存在する民族でした。移民として台湾

に流入し，必死で生き抜こうとした人々。先住民との衝突や争いなどの多くの苦い経験を経て，先住民の知恵を取り込みながら，たくましくその文化を受け継いでいった人々。

３名が語る「家族」は，日本にも戦前まであった「家」という存在に通じるものかもしれません。彼らにとっての先祖は今を生きる彼らに多くを語り，強いる存在でもあるでしょう。彼らは覚悟をもって子供たちへと受け継いでいくのでしょう。翻って，われわれ日本人のほとんどが忘れてしまっている自分のたちの背負うべき歴史。根無し草になっている危うい日本人の姿を見たような気がします。少なくとも私自身が背負う先祖の歴史はほとんどないのにも気づきました。日本はどうしてこんな風になったのか，世界のニュースの情報も細かく伝わってくるし，ワールドカップに熱狂できる幸せもある。満たされる時代であるのに満たされていない。そして何か地に足のついていない感覚が常に付きまとっているように思う。「客家」という壮大な歴史を背負う存在を知り，そんな風に日本のことを考えさせられた私です。

5　編集委員より

S.Y.

オーストラリアのトラベラーから、10月に泊まりたいとメールがきました。予定があったので残念ながら断りました。（結局、他の会員宅に泊まる予定が、熱がでて、キャンセルされたそうです）また、今年もトラベラーが来たらいいなと思いました。

（Y 作）

（始めに戻る）